

二〇二三年度 早稲田大学大学院文学研究科 入学試験問題
 【修士課程】 一般外国語 日本語 ※解答は別紙 (縦・横 書)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひとの話が口から口へと伝わっているうちに、とんでもない①化け方をすることがある。別に尾ひれをつけようという意図がなくても、もとのコンテキストから外された部分、つまり、引用された話は、そのままではどうもAが悪い。安定させるには、つかい棒がほしい。受け売りをする人にそういう心理が働いて、それが何人も重なり、原形をとどめないままに変貌する。流言とか、噂とかは、それが極度に大きくなった例である。

そうでなく、談話の一部が新聞雑誌にのるときも、本人の意図と大きくずれることがすくなくない。それで、そういうコメントの求めには一切応じないのを方針としている人もある。話をしているときには、前後の②雰囲気がある。それにつつまれてはじめて伝わるような真意は、その「着物」を脱がせてしまえば、まるで違った印象になる。

表現には、ことばのほか、空気によって伝わる意味がある。日本語では、それがとくにいちじるしい。

前にもものべたように座談会記事はわが国独自の形式である。それを支えているのは、論理ではない。空気のレトリックともいふべきものである。その座の空気ができると、fのコミュニケーションが展開される。たいてい、はじめのうちは、③固さがあって自由なことが言いにくい。空気が定まってくるにつれて、言外の意味がお互いに通じ合うようになる。もう、これでおしまい、速記停止となったあとになると、④カキヨウに入って、すてるのが惜しいようになる。

座談会がおもしろいのは、その場の空気によって、ことばにならないBが伝わるところにある。これは速記原稿に手を入れるときにも感じられる。

このごろの速記はテープレコーダをまわしているから、わかりにくいところはあとでテープによってチェックできる。再現についてはいくらでも正確を⑤キずことができる。しかし、そういう忠実な速記原稿ほど、本人が見ると、目をおおいたくなる。

その場の勢いで、半分言っただけのことも、ほかの人にわかってもらえる。Xそういう顔をされると、もうさきを言うのは不必要なように感じられて、そこを飛び越えて、次の点へ移る。その座の空気を吸っているときはそれでよいが、それが消えて文章になると、いったいこれは何か、と本人でも首をひねる。

座談会原稿の整理はおそらくもともと高度の編集技術に属すると思われるが、gの空気をいかにして紙上に移すかの腕によって、読みものとして、おもしろくも、退屈にもなる。こういう形式が生れ、人気を得ているのは、移しにくいのを承知の上で、なお、空気による伝達のおもしろさに心をひかれる日本人がいかにかを物語るように思われる。意味や論理がどうでもいいのではないけれども、座談会ではコンテキストのかもしれない⑥インエイのある意味、含蓄にCされた論理により大きな興味がもたれる。

講演のテープをおこして原稿にした。機関誌にのせる。目を通して返送してほしい。講演のあと、原稿を送ってよこして、そういうことを申し入れてくることがある。その原稿を見

ると泣き出したくなる。どうして、hなことをしゃべったのか。まるで文をなしていない。まさに⑦サクランである。心配になって講演をきいてくれた人に話の⑧筋が通らなかったのではないか、ときいてみると、そうでもないという。本人を前にしては本当のこととは言うのをはばかるということがあるかもしれないが、y。

やはり講演の会場には一種の雰囲気がある。その無言の力に助けられて、点のようなものを並べても線のように感じとられるのであろう。文字では、その空気が抜けてしまうから、バラバラに散ってしまう。

外国の学者がよく講演を本にする。講義を出版する。はしがきに、ほとんど手は入れなかった、というようなことが書いてある。われわれが話したものを活字にするときに、いかに苦勞しなければならぬかを考え合わせると、日本語における空気の作用の大きさを痛感せざるを得ない。Z言外の意味が、しばしばことばの意味を決定する。これが日本語の話しことばと書きことばの大きなDの一因かもしれない。

囲碁の⑨碁石を素人が見ていると、どうしてあんなにバラバラにするのか不思議である。つながっていないではないか。あれでいいのか、などと心配になる。

ところが、石と石は離れているようで、目に見えない筋によって結ばれている。石と石とが切れているように見える。その間の空間が実は両者の関係をつけているのである。空気によってつながられる。座談会のひとつひとつの発言がいかにもEがないようでありながら、その場の雰囲気によって、ゆるやかな、したがって、いくつもの解釈を同時に許す独特の表現効果をあげるのも、碁石の並び方に通ずるところがある。

こうなれば、俳句を考えるのが順序である。十七音という短詩型で、どれほどのことが表現できよう、と疑問をいだくのは、文字になったことばだけを考えるからである。俳句には句切れ、句切れに大きな空間がある。その空白がものを言う。

空間のない俳句がつくられたりしてはことである。空気の表現が不可能になる。そういうことを避けるために、切れ字を用いよ、という作法が確立した。それならばんやりしていても空間を忘れることはない。切れ字のあとに、大きな切れ目ができる。

古池や蛙飛びこむ水の音

切れ字「や」のあとにもっとも大きな中間の空白がある。そして「飛びこむ」のあとにも空間がある。さらに「水の音」につづいてまたきわめて大きな空間がある。「古池や」の部分はそれにつづく空白のところ増幅され交響の意味を生じる。それはヴァイオリンの絃から発する音が共鳴で何倍にも大きくなるのに似ていなくもない。ただ、ことばは、人によって、あるいは、ひとりの人間でも、ときと場合によって、さまざまに違ったものと解される。増幅と同時にオーケストレーションの効果をあげることができる。

世界でもっとも小さな詩が独立し、多くのことを表現しうるのも、⑩サイシンに用意された空間において、空気がものを言うからである。

(外山滋比古の文章による)

問一 傍線部①②③⑧⑨の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問二 傍線部④⑤⑥⑦⑩の片仮名の部分を漢字で書きなさい。漢字は現在の日本語で用いられている標準的な字体によって、楷書体で丁寧に書くこと。

問三 空欄 A E に入る最も適切な語を、次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上使わないこと。)

ア まとまり イ くまどり ウ へだたり
エ 座り オ 含み

問四 空欄 f h に入る最も適切な四字熟語を、次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上使わないこと。)

ア 談論風発 イ 付和雷同 ウ 以心伝心
エ 玉石混淆 オ 支離滅裂

問五 傍線部X「そういう顔」とはどのような表情のことか。十五字以内で説明しなさい。(句読点を含む場合は一字に数えること。)

問六 空欄 Y に入る最も適切な表現を、次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。

ア そのとおりであろう
イ そうであっては困る
ウ そう考えざるをえない
エ けっしてそうではない
オ そればかりでもあるまい

問七 本文の内容に一致するものを次のア～オの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 談話の一部が切り取られて新聞雑誌にのる際は、本人の意図と大きくずれることが少なくなく、原形をとどめないままに変貌してしまうため、筆者はそういうコメントの求めに一切応じないことにしている。

イ 座談会は、その場の空気によって言外の意味がお互いに通じ合うことがおもしろいが、このごろの速記はテープレコーダをまわして、わかりにくいところは後でチェック

できるため、退屈なものになる。

ウ 外国の学者が講演や講義を活字化する場合、ほとんど話したままを本にして出版できるのは、日本語ではない言語の特質によるものであり、日本語は話したその場の空気が重要であるためそうはいかない。

エ 囲碁において、石と石の並び方は整然としており、そのことで作り出される空間が勝負に活きる点は、いくつもの解釈を同時に許して独得の表現効果をあげる座談会のあり方と似通ったところがある。

オ 俳句はたった十七音という短詩型の芸術であるが、その句が作られた状況や空間、作者などのコンテキストがその場の空気として存在し、その句の解釈に影響を与えるため、十七音以上のことを表現しうる。

問八 二重傍線部Z「言外の意味が、しばしばことばの意味を決定する」という事例には具體的にどのようなものがあるか。あなた自身が体験した、または見聞きした事例を本文の趣旨に照らして一つあげ、一五〇字以上二五〇字以内で説明しなさい。

--

問六

15	

問五

f
g
h

問四

A
B
C
D
E

問三

④
⑤
す
⑥
⑦
⑩

問二

①
け
②
③
さ
⑧
⑨

問一

——ここから記入すること——

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。
漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

日本語

総 点

--

日本語

問七

問八

[illegible]

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——